平成23年度　第4回
九州地方整備局 事業評価監視委員会

うみ　　なかみちかいひんこうえん
海の中道海浜公園　事業

① 事業採択後3年経過して未着工の事業

② 事業採択後5年経過して継続中の事業

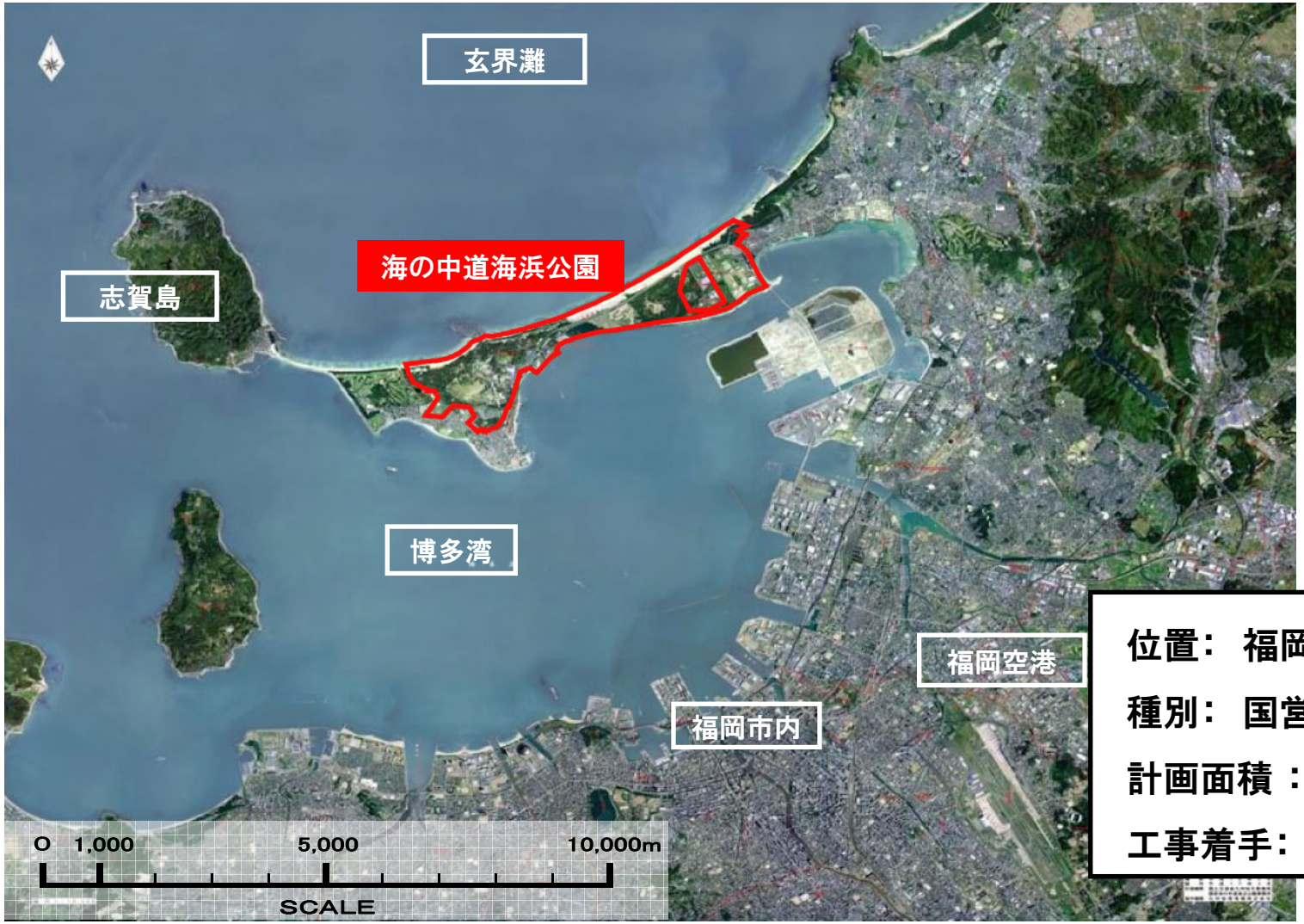
③ 着工準備費又は実施計画調査費の予算化後3年経過した事業

④ 再評価実施後3年経過した事業

⑤ 社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要性が生じた事業

1. 事業概要 ― 設置目的

北部九州における広域的なレクリエーション利用、「白砂青松」の良好な自然環境の保全を目的に、S51年より国営公園として整備しています



位置： 福岡県福岡市東区

種別： 国営公園(イ号)

計画面積 ： 539.4ha

工事着手： S51年12月

1. 事業概要 ― 整備等の経緯

- S47年に米軍博多基地(キャンプ博多)が返還
- 「広大で良好な自然環境を公園として利用したい」との地元福岡県、福岡市からの大規模公園設置の要望を踏まえて都市計画決定
- 昭和51年度より整備を進め、S56年10月に第1期開園
  → 増大するレクリエーション需要への対応
- その後も、順次開園し、H22年に環境共生の森、H23年に「海の松原」が開園
  → 自然とのふれあいや環境との共生への意識の高まり

年	月	整備等の経緯	開園面積
昭和47年	6月、11月	米軍基地返還(シオヤ岬部分は昭和52年)	-
昭和50年	5月	都市計画決定	-
昭和51年	12月	事業着手	-
昭和56年	10月	第1期開園(西口広場、大芝生広場、動物の森)	59 ha
昭和58年	6月	サンシャインプール	73 ha
昭和62年	4月	ホテル海の中道(現ルイガンズ)	116 ha
平成元、7年	4月、4月	マリンワールド(海洋生態科学館)	189 ha
平成14年	3月	光と風の広場(デイキャンプ場等)	230 ha
平成17年	3月	潮見台エリア(玄界灘海浜部)	249 ha
平成22年	3月	環境共生の森	265 ha
平成23年	3月	海の松原(玄界灘海浜部中央部及び西部)	292 ha
開園面積			292 ha
計画面積			539 ha

1. 事業概要 ― 全体計画

S56より、大芝生広場・サンシャインプールなど整備開始。現在、292ha開園。今後、森の池エリアなどを順次開園。

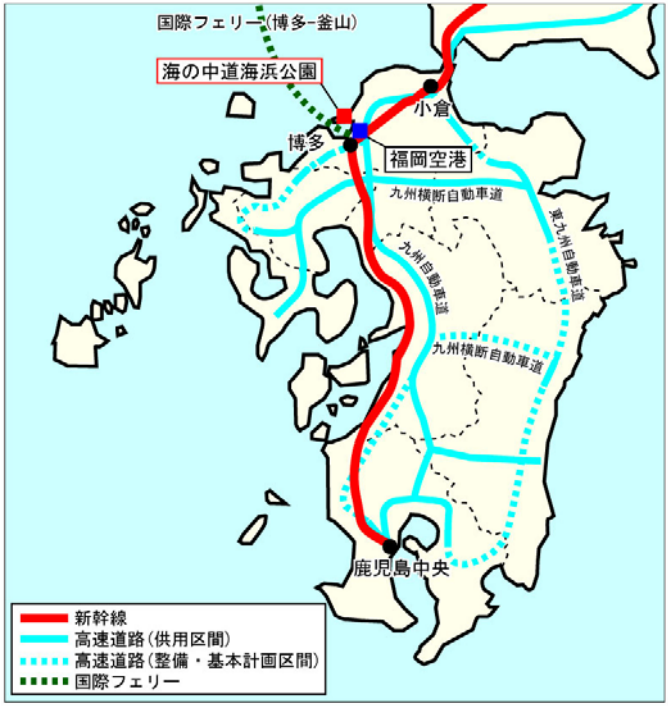
2. 事業の必要性等 ― 社会情勢の変化

- H19年の博多～釜山への定期旅客航路は年間84.4万人。H5年開業当時の8倍
- H22年の博多港における中国船籍クルーズ船の寄港は61回。H19年の約6倍
- H23年3月に九州新幹線博多－鹿児島中央が全線開通
- 東九州自動車道などの整備により、今後さらに九州の高規格幹線道路ネットワークは拡大

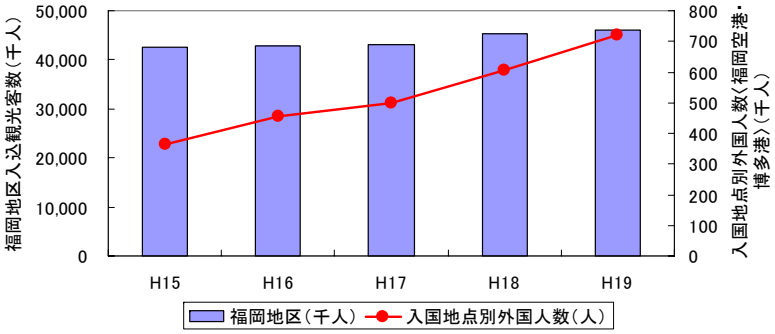
今後も福岡都市圏の交流人口はより一層増加することが見込まれる

- 海の中道大橋の4車線化 （H26 年春予定）
- 臨港道路アイランドシティ1号線の6車線化 （H26年春予定）
- 雁の巣レクリエーションセンター前交差点の改良（平成24年春完成予定）

周辺道路等の改善により、渋滞解消や時間短縮などお客様のアクセスの利便性が向上する



[図] 九州交通ネットワーク図



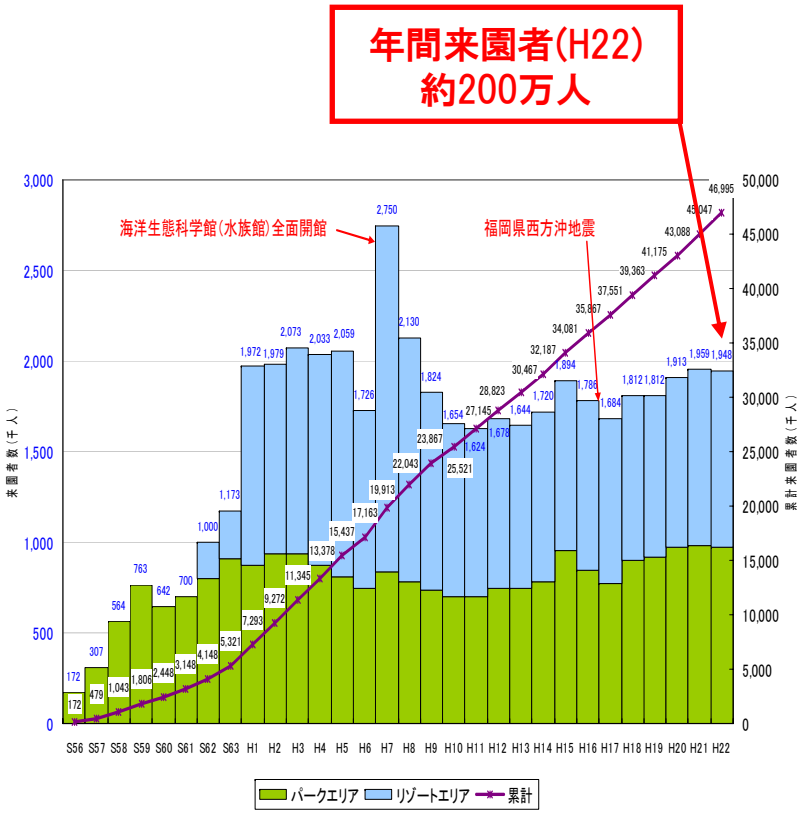
出典:国土交通省「九州観光データ2009」

[図] 福岡地区の入込観光客数の推移

2. 事業の必要性等 ― 事業の効果・必要性①

年間約200万人のお客様

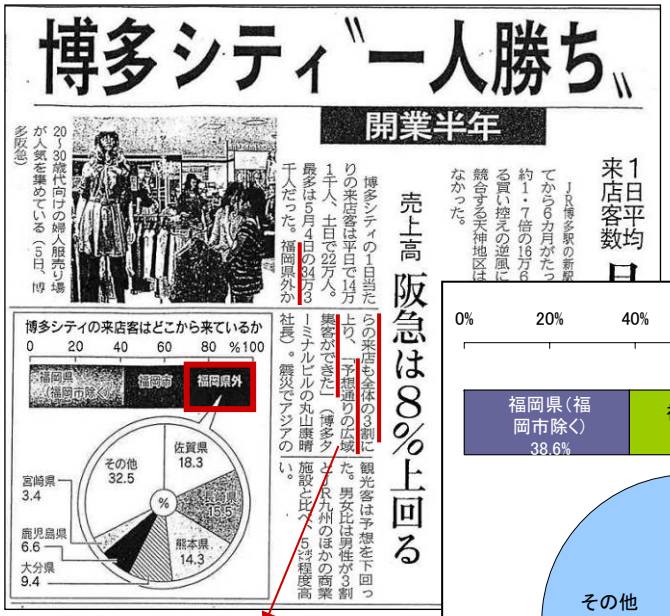
- H22年度の来園者数は約200万人
- H23年3月末時点の累計で約4,700万人



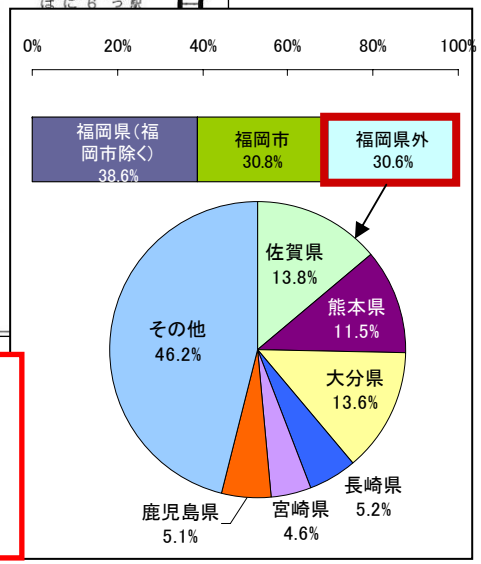
[図] 来園者数の推移

県外からのお客様が多い

- 県外からの利用は、広域集客の民間施設と同程度の約30%



- 福岡県外からの来店も全体の3割
- 「予想通りの広域集客ができた」(社長)



本公園の休日の県外利用者の割合

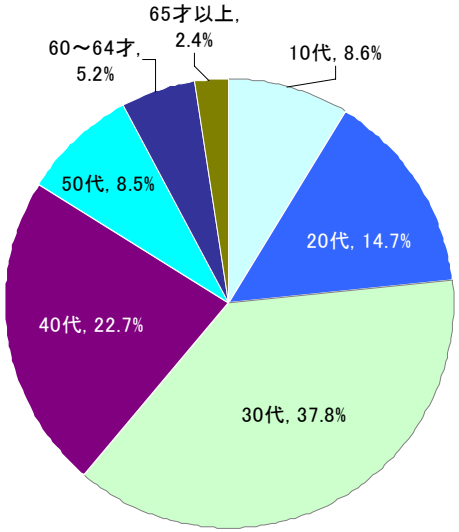
出典:2011.9.6日経新聞(左)、H22 海の中道海浜公園利用実態調査(右)

[図] 博多シティの県外利用者割合との比較

2. 事業の必要性等 ― 事業の効果・必要性②

あらゆる年代にご利用頂いています

・ 10代から60代以上までのあらゆる年代のお客様



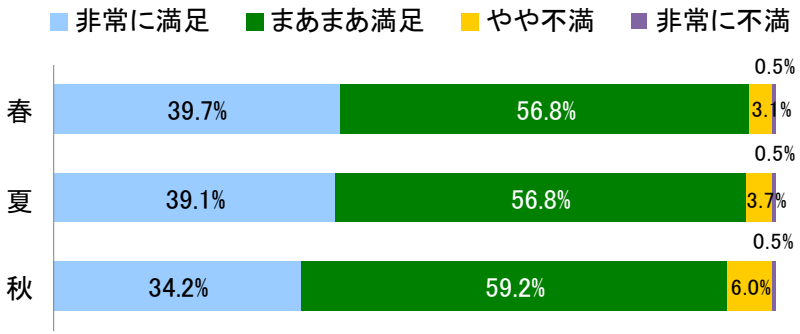
出典:H22 海の中道海浜公園利用実態調査

[図]来園者年齢構成

多くのお客様にご満足頂いています

・ 「非常に満足」が約34～40%

・ 「まあまあ満足」とあわせると90%超



出典:H22 海の中道海浜公園利用実態調査

[図] 利用者満足度

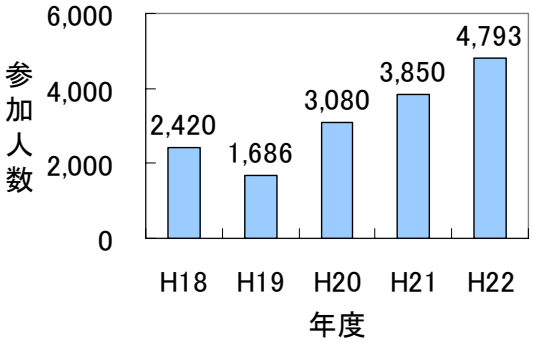
2. 事業の必要性等 ― 事業の効果・必要性③

地域の環境保全に貢献しています

・ 「日本の白砂青松100選」に選ばれているクロマツ林を適切に保全・再生

公園管理者だけではなく市民参加による環境保全活動も進んでいます

・ ボランティアとともに環境学習を行う仕組み、また、公園をフィールドとしたNPO等の活動が展開



[図] ボランティア参加者数 （延べ）

ボランティアの参加による森づくり

NPO主催のコアジサシ保全活動

はかた夢松原の会の植樹活動

2. 事業の必要性等 ― 事業の効果・必要性④

先駆的なユニバーサルデザインの取り組みを進めています

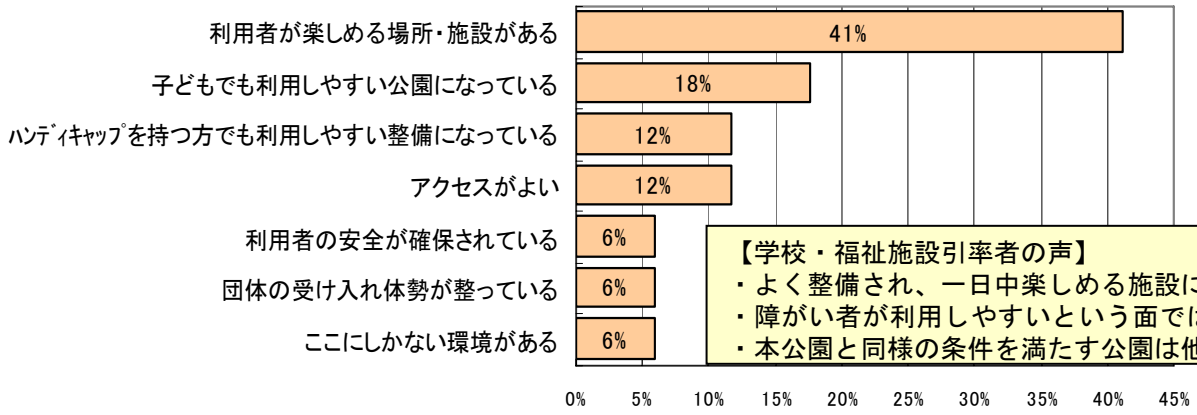
- 高齢者、障がい者、幼児、外国人などあらゆるお客様へのサービス向上のため、外部有識者等によるユニバーサルデザイン(UD)検討委員会による取り組みを継続
- 学校・福祉施設に安心・安全・快適な野外活動の場として活用

UD対応の遊具

UD対応の園路とサイン

4カ国語のパンフレット
（日・英・韓・中）

園内施設を登録



子どもの利用及び本公園の
ユニバーサルデザイン等の
取り組みを重視。

【学校・福祉施設引率者の声】
- よく整備され、一日中楽しめる施設になっています。
- 障がい者が利用しやすいという面では非常にありがたい設備がたくさん整っている。
- 本公園と同様の条件を満たす公園は他に無い。

出典：国営海の中道海浜公園整備効果検討業務
（平成23年3月）想定受益者アンケート

図　小中学校・養護学校・福祉施設が本公園を選んだポイント

2. 事業の必要性等 ― 事業の効果・必要性⑤

福岡の個性である海のリゾート、都市のイメージを形成しています

- 福岡市総合計画（基本構想）

  「3 海と歴史を抱いた文化の都市」

  「海をめぐる都市の魅力と景観、海洋系レクリエーション、リゾート基地など、自然の魅力が織りなす福岡の個性を積極的に創造」。「豊かな自然が残る海の中道」について、「市民が海とふれあい、海を楽しむ空間として整備を図り、都心を海に開かれた魅力ある空間としていく」。「福岡を訪れる人々にも魅力ある都市づくりを行う」。

- リゾートをイメージした青と白のテーマカラーは、周辺施設等とともに地域のイメージ形成に貢献

国営海の中道海浜公園

海の中道海浜公園のロゴ（H4～）

AQUA PLAZA
海の中道マリーナ&テニス

海の中道マリーナ＆テニス（ホテル海の中道）のロゴ（S62～）

マリンワールド
海の中道

マリンワールドのロゴ（H1～）

雁の巣レクリエーションセンターのサイン（H4～）

アイランドシティのサイン（H14～）

アクアエクスプレス（S62～）（写真協力：JR九州）

アクアライナー（現在）

3. 事業の投資効果 ― 費用対効果の考え方

- 公園整備によって生じる価値は、「利用価値」と「非利用価値」の2つに大別
- 「改訂第2版 大規模公園費用対効果分析手法マニュアル」では、利用価値のみを評価
- 利用価値のうち、直接利用価値を「旅行費用法」で評価し、間接利用価値を「効用関数法」で評価

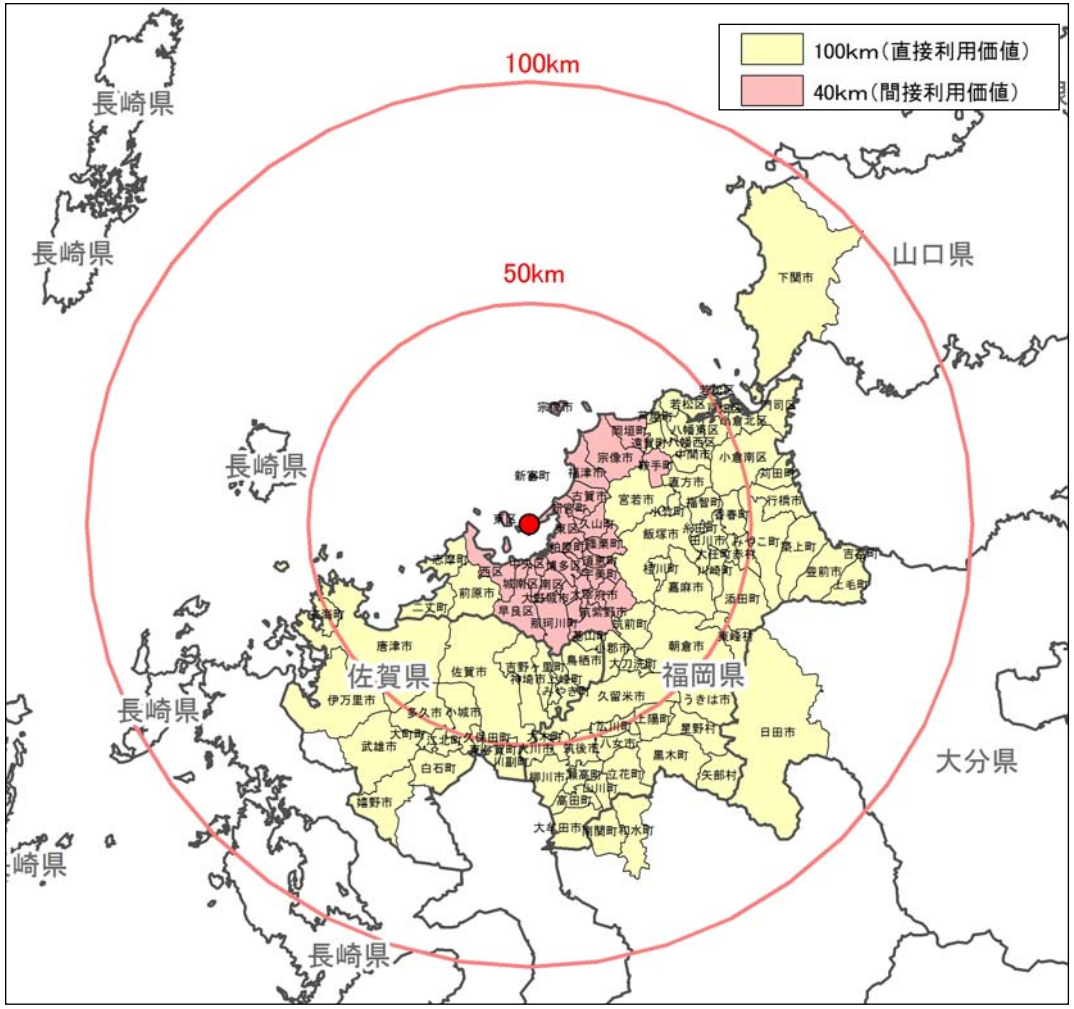
［表］公園整備によって生じる価値体系と評価手法

価値分類		機能	価値の種類（例）	評価手法	
				旅行費用法	効用関数法
利用価値	直接利用価値	健康・レクリエーション空間の提供	健康促進、心理的な潤いの提供、レクリエーションの場の提供、文化的活動の基礎、教育の場の提供	○	
	間接利用価値	都市環境維持・改善、都市景観	緑地の保全、動植物の生息、生育環境の保存、ヒートアイランド現象の緩和・二酸化炭素の吸収、森林の管理・保存、荒廃の防止、季節感を享受できる景観の提供、都市形態規制		○
			気候緩和・騒音軽減		
		都市防災	災害応急対策施設の確保、火災延焼防止・遅延、災害時の避難地確保、復旧・復興の拠点の確保		○
			洪水調整、地下水涵養、強固な地盤の提供、防風・防潮機能		
		地域活性化	観光客増加、地域活動推進		
	オプション価値	現在は利用しないが、将来の利用を担保することによって生じる価値			
非利用価値	存在価値	公園が存在することを認識すること自体に喜びを見出す価値	海辺の都市のイメージ形成		
	遺贈価値	将来世代に残すことによって生じる価値	白砂青松の景観の保全		

大規模公園マニュアルの評価対象　　評価対象外ではあるが本公園が発揮している価値の例

3. 事業の投資効果 ― 分析条件

大規模公園マニュアルによる便益の分析方法



[図] 計測範囲

大規模公園マニュアルに基づき、

- 直接利用価値の計測範囲は、旅行費用法による経路長100km
- さらに、各ゾーン内の居住者が利用することが考えられる本公園以外の大規模公園(10ha以上)を競合公園として設定
- 間接利用価値の計測範囲は、効用関数法よる経路長40km

[表] 競合公園数

公園種別	国営公園	広域公園	総合・運動公園	それ以外の公園	合計
公園数	1	10	63	27	101

それ以外の公園:風致公園、都市緑地、その他

3. 事業の投資効果 ― 前回評価時との比較

全体事業費935億円　（前回評価時から増減なし）

便益(B)：基準年における現在価値			前回(H20) 5,011億円		今回(H23) 7,199億円	
価値分類		機能	旅行費用法	効用関数法	旅行費用法	効用関数法
利用価値	直接利用価値	健康・レクリエーション空間の提供	3,697億円		5,695億円	
	間接利用価値	都市環境維持・改善、都市景観		458億円		538億円
		都市防災		856億円		966億円
費用(C)(基準年における現在価値化)			2,516億円		2,940億円	
全事業(B/C)			2.0		2.4	

今回評価では大規模公園マニュアルに基づき評価精度を高めるために次の点を変更

① パークエリアの来園者数を推計値(53.9万人)ではなく、実際の年間来園者数(97.4万人)を用いて便益を算出

② 前回評価時に計上していなかったH42年度(評価期間最終年度)の便益を計上(雁の巣エリアの供用)

③ 前回評価を今回と同様の手法で評価した場合はB/C=2.3

4. 事業の進捗見込み

■ 子供の広場エリア

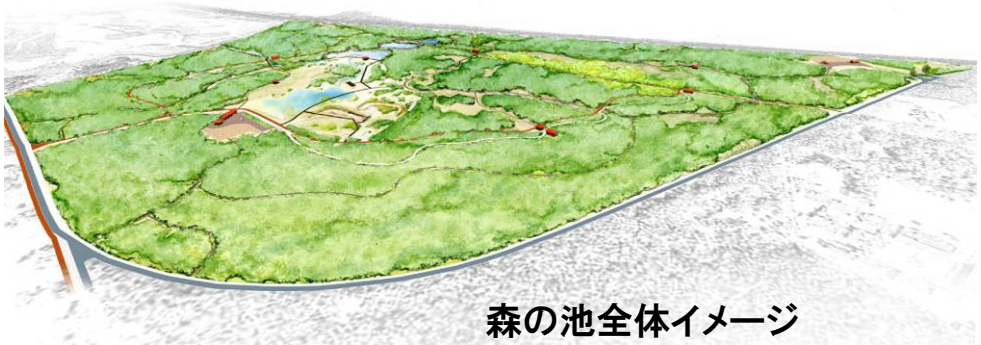
ジェットコースターなど大型遊戯施設を撤去した区域を段階的に整備（H22～25年度）

子供の広場CGイメージ

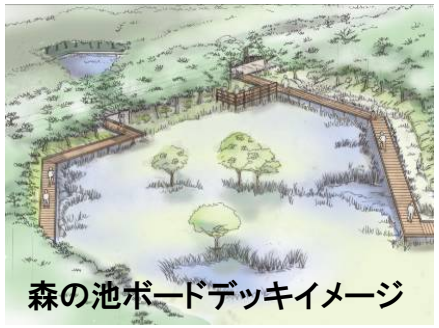
段階整備中の子供の広場

■ 森の池エリア

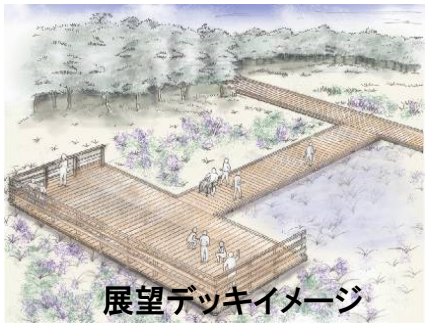
環境共生の森とともに森づくりなどの環境学習の場等として、また、ユニバーサルデザインに基づき既存の森を保全・育成しながら活用 （H24年度から整備着手）



森の池全体イメージ



森の池ボードデッキイメージ



展望デッキイメージ

■今後の事業見通しについて

事業進捗率は事業費で73%、面積で54%

「森の池」の開園後は面積で63%

5. コスト縮減

■ 計画段階

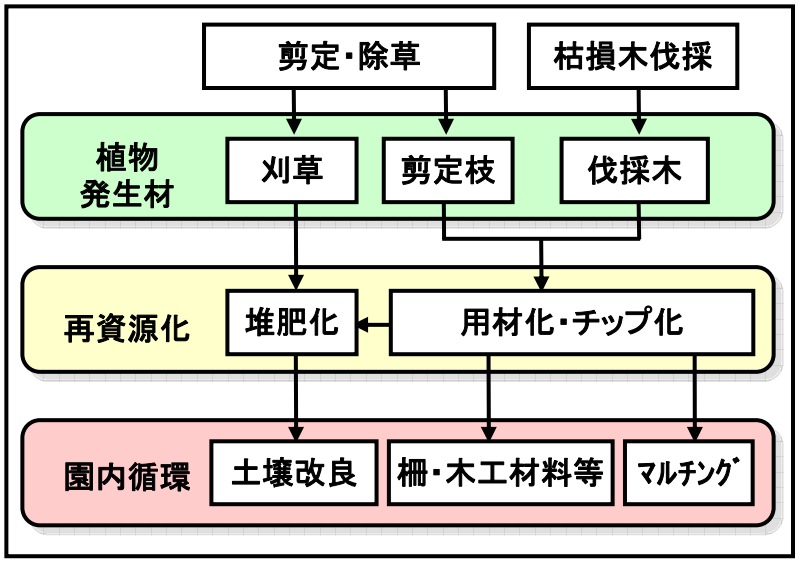
コスト縮減手法	計画見直し	縮減額
「森の池エリア」における計画の見直し	便益施設の配置を見直し	0.3億円

■ 整備段階

コスト縮減手法	整備見直し	縮減額
子供の広場再整備における建設残土の活用	道路工事で発生した建設発生土を盛土材として有効活用	0.1億円

■ 管理段階

園内で発生した草本や枯損木等の植物発生材を全て堆肥化やチップ化することにより、処分費及び堆肥／マルチング材の購入費を縮減



6. 対応方針（原案）

- 年間約200万人の利用者数、また、県外利用者の割合も高く、誘致圏は広範囲で広域レクリエーション需要に対応している

- 多様なレクリエーションのニーズに対応するとともに、誰もが安全・安心・快適にご利用頂けるようにユニバーサルデザインを推進しており、あらゆる年代に利用され満足度も高い

- 地域の豊かな自然環境を保全しながら、環境学習や市民活動の場を提供することで、自然体験や環境学習など今後のニーズに応えた整備を進めている

【対応方針（原案）】　本公園の事業を継続することとしたい